令和４年度　江戸川区立大杉東小学校　学校関係者評価　最終評価用報告書

学校教育目標	よりよい目標を実現する子 ◎考える子　○やさしい子　○やりぬく子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	常に改善を目指し、夢のある学校 コミュニケーションの土台である「挨拶」「笑顔」「感謝」がしっかりできる児童 ①児童・保護者・地域の信頼に応える教師　②教育のプロとして授業で勝負する教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞　○高学年を中心に生活態度が改善され落ち着いて学習に取り組めるようになった。 ○新型コロナウイルス対策を行いながら、学校行事を工夫して取り組み、教職員が一層協力し、「チーム大杉東」の結束が高まった。 ＜課題＞　●学力が全国平均を10ポイント以上下回っている。　●体力が都平均を下回っている。 ●産育代替教員も含め若手教員が多く、授業力・指導力を向上させる必要がある。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・各教科・領域における学習スタイルの確立 ・学習規律「東5学習編」の徹底 ・研究教科「総合的な学習の時間」「生活科」「読書科」を中心に、探究的な学習スタイルの確立 ・算数科「復習タイム」の設定 ・5・6年4担任における教科担任制の導入	・児童自己評価「学習が理解できた」90%以上 ・学力調査全国平均－5%以内 ・算数科ワークテスト平均正答率80%以上 ・ベーシック診断テスト平均正答率全学年75%以上	A	B	○週時程の変更や学習規律の徹底により、学習時間が保証された。 ○6年の全国学力・状況調査において全国平均－5%以内を達成できた。 ○2学期のベーシック診断テストでは学校平均すると78%と1学期に比べ6%以上伸びた。	B	・全国学力調査の全国平均に近づけるように目指してほしい。	・探究的な学びをさらに追求していく。 ・教科担任制の成果と課題を明確にし、大杉東小学校としてのスタイルを確立させる。 ・誰一人取り残さない学力アクションプランに基づいた指導を充実させる。 ・児童が主体的に学習に取り組むためにタブレットを活用した学習を充実させる。
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・各領域の実技研修の実施 ・年間を通した竹馬活動の実施 ・体力向上につながるプレイルームの設置	・運動への関心意欲90%以上 ・体力テスト4学年以上で都平均以上	A	B	○仮設校舎での限られた環境の中で、プレイルーム等の設置など運動の場を工夫することができた。 ○なわ跳び週間やマラソン週間を設定し、体力向上をねらった運動の機会を増やした。 ●さらに運動意欲につながる工夫を行う。 ・ICTを活用した体力調査結果入力 ・自己を知り、さらなる意欲の向上を目指す。 ・取組カード等のさらなる工夫を行う。	A	・限られた運動環境の中で、体力テストの結果が向上していることは評価できる。	・仮設校舎生活は来年度まで続く。今年度も体力維持に向けて取り組んできているが、今年度以上に創意・工夫をし、体力維持に努める。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実（読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等） ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・「読書科ノート」の活用 ・「調べる学習」の教員研修 ・「調べる学習コンクール」に全児童出品 ・保護者ボランティアの協力を得た環境整備と読み聞かせ	・図書資料を活用した調べる学習学期1回以上 ・学校図書館整備学期1回 ・保護者ボランティアによる読み聞かせ月1回以上	B	B	○昨年度に引き続き、今年度も「調べる学習コンクール」に全児童出品した。 ○読書科を校内研究で行い、児童だけでなく教員も探究的な学習の充実及び意図的な読書を図った。「読書科ノート」を計画的に使用した。 ○小中連携の取り組みで中学生による読み聞かせを実施した。 ●意図的な読書や、図書資料の活用の充実を行う。	B	・コロナ対策の緩和に伴い、松江四中の読み聞かせボランティアの回数を増やしてほしい。	・「調べる学習コンクール」に全児童出品する。 ・保護者や中学生、縦割り班活動による読み聞かせ活動を行う。 ・意図的な図書ができるように地域の図書館を活用する。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・個別の支援シートの充実 ・「学校2020レガシー」に基づいた取組 ・エンカレッジルームの円滑な運営 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境整備	・年3回の生活指導全体会での児童理解 ・「学校2020レガシー」に基づいた取組を各学年1回以上実施 ・年に3回の環境整備の実施	C	C	○「学校2020レガシー」に基づいた取組として、オリパラコーナーを作り、環境を整えることができた。 ○エンカレッジルームの円滑な運営ができた。 ○色覚異常の研修会を行い、板書時に使うチョークの色の配慮など校内で共通理解をした。 ●ユニバーサルデザインの視点をもった取組の全体周知と実践ができなかった。	C	・現在ある「オリンピックパラリンピックコーナー」をもっと活用してはどうか。	・特別活動の異学年交流「なかよし班」活動や総合的な学習の時間等で、「インクルーシブ教育」を充実させ、育成し強化する。
	子供たちの健全育成	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用 ・児童会を中心とした挨拶運動の充実 ・異学年でのなかよし活動の充実	・「挨拶・笑顔・感謝」の実践 ・「東5生活編」の徹底 ・週1回の生活指導夕会での情報共有 ・年2回の全校遠足の実施 ・異学年でのなかよし班で行う竹馬づくりや竹馬運動 ・hyper-QUの実施	・自分から挨拶できる子80%以上（児童会の調査） ・いじめ早期解決100%（発見から3か月以内） ・QU学級満足群80%以上	B	B	○年2回の全校遠足を実施及び異学年交流のなかよし班活動、竹馬運動を通して、思いやりの心や自己有用感を味わわせる取組ができた。 ○児童から挨拶運動を行いたいという声が上がり、「あいさつ隊」を結成し、朝の挨拶運動を充実させた。 ●児童の見本となれるよう、教員自身のさらなる挨拶の実施を行う。	B	・挨拶運動は良い取り組みなので、通年で行ってほしい。登校班で挨拶運動をしてみてはどうか。	・異学年交流のさらなる充実を図り自己有用感を高める。 ・縦割り班活動を月1回設定し活動を充実させる。 ・通年で挨拶運動を行う。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・年4回の学校公開の実施 ・学校関係者評価委員会の実施 ・各学校行事のアンケートと改善案の作成	・学校アンケートの回収率90% ・学校関係者評価各項目でB以上	B	B	○ICTを活用したアンケート方法の改善を行う。他校の学校アンケート方法の状況を調査した。 ○アンケート項目を精選し、形成的評価が図れるようにした。	B	PTAのお便りを紙ベースではなく、ICTを活用して保護者に通知できるようにしている。アンケートの機能も付いているので、うまく活用できないか。SDGsの観点からも資源の削減につながる。	・アンケート等のICT化を図る。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・月に2度の定時勤務日の設定 ・定期的な超勤時間の定時 ・土日勤務の事前申請 ・教職員19時までの退勤の促進 ・校務分掌の見直し	・月の超過勤務時間を45時間以内の抑制	B	C	○校務分掌を整理し、一人一人の役割を減らした結果、全員の超過勤務時間を減らすことができた。 ●教員の意識は変わってきているが、45時間以内は全体の1／3しか守れなかった。	B	真面目で一生懸命働いている教員が多く、月の超過勤務時間を45時間以内に抑制するのは難しいのではないか。	・全員の総超過勤務時間の掲示を行う。 ・業務の整理を行い、スクールサポートスタッフと連携し効率的に業務を進めていく。